ISSN 1344-5561
京都府立大学図書館報
なからぎ
１８７号
２００９年４月

「図書館への愛」を考える

附属図書館長　山　崎　福　之

「愛」などと言うと、いかにも情緒的で、議論の対象になりにくいもののように思われるかもしれない。しかし、「目に見える形がなくとも人間の精神生活にとって必要不可欠のもの」という意味においては、当然折々に顧みて、その意味を問うべきものであろう。その「愛」の対象は何も人間ばかりとは限らない。

「図書館への愛」というのは、東自由里（ひがし・じゆり）氏の論説（京都新聞2009年１月９日付け夕刊「現代のことば」欄）の題名である。そこでは東氏が米国の大学で学んだ経験に基づいて図書館のあり方が論じられている。国情の違いもあり、単純な比較はできないが、地上12階建て、地下三階分の自習室など、その図書館の設備は羨ましい限りであった。

しかし私が何よりも惹かれたのは、その大学図書館に掲げられている言葉であった。「考えることを疎かにすることほど恐ろしいことはない」。東氏はこの言葉に時にハッとさせられ、また勇気を与えられたという。大学図書館が何のためにあるのかということを最も端的に表した言葉であろう。そこには「考える」ことの奥にあるもの、大学図書館には「効果的」とか「効率的」とかの言葉では語ることのできないもののあることが示されている。そして東氏は言う、大学図書館とは、思考を鍛錬する場所、集中したり瞑想したり、リラックスしたりする場所、自分と向き合うための装置、チャレンジ精神と勇気を持って、謙虚な気持ちで訪れる場所……。

これら大学図書館に望まれる姿を、公立大学法人となった府立大学として、今一度思い起こしてみることが大切である。それらの大学図書館像の問題は、実は図書館だけの問題ではなくなっていると思われるからである。それらが「大学の生命線」とも言うべき図書館から失われていくことは、そのまま大学そのものから失われていくことを意味するのではないだろうか。現在多くの大学では、その教育、研究、運営、地域への貢献というすべてがきっちりとこなされているか、それを検証し、評価するシステムがあるか、問題点の改善策を具体的に、また組織的に検証できるか、などといった事柄が、求められる課題の中で大きな比重を占める状況となってしまっている。教職員が日々これらの対応に追われていては、学生もまた課題を「こなす」作業に追われる状況に陥り、誰もが「考える」ことの意義に深く思いを致す余裕が失われてしまう、そうなれば大学にもそしてもちろん図書館にも、東氏の説かれるようなあり方は実現しないであろう。

最後に。その米国の大学図書館では、学長はじめ大学の管理責任に当たる役員の部屋が図書館の最上階にあり、しかもその部屋に行くためには、必ず学生が図書館で学んでいる姿に接しなければならないように設計されているそうである。それこそ、大学図書館ー学生の日々の学びを支えるかけがえのない空間ーが大学の中心であること、大学の生命線であることを「目に見える形」で表現しているということになろう。東氏はそれを「大学への愛情の表象」と言われる。

これから府立大学の図書館のあり方を議論していく過程で、構成員の一人一人が「図書館への愛」に基づいて、考えを寄せてくださることを期待したい。

（やまざき　よしゆき：文学部教授）

名品翻訳小説へのお誘い

図書館運営委員　川　分　圭　子

「古書を読むこと、外国の書を読むこと、外国に住むことはよく似た経験だ」。
これは昨年秋亡くなったデレク・ブルワーというケンブリッジ大学名誉教授の言葉だそうだ (2009年1月23日、朝日朝刊)。記事によると、この方は日本でも教鞭をとっていたことのある英文学者ということである。私はこれまでこの人を知らないままだったが、この冒頭の言葉は私が常に感じていたことと同じだったので、非常に心に残った。

どうして、古い本を読むことと、外国の本を読むことと、外国に住むことは、似ているのだろうか。それはそのどれもが、違う社会に生きる人々に出会って、その人達を理解しようとすることだからだろう。

考えてみれば、私たちが大学で日常的に目を通している論文や教科書、新聞・雑誌、新書などは、現代の日本あるいは日本のような先進国で書かれたものばかりである。本屋さんで並んでいる文庫本も現代日本人作家のものが多い。もちろんこうした同時代の自国の文献を読むのは当然だし必要でもあるが、これだけやっていると、いくら普遍的真実や重要な問題について書いてあったとしても、結局は現代の日本の論理や事情だけで頭がいっぱいになり、なかなか他の時代 (過去だけでなく将来も) や地域に想像力が及ばなくなってしまう。

だからたまには、古い時代や外国で書かれた本を直接読んでみよう。昔の人や外国の人の生の声が聞ける。しかし日本の古書はともかく、外国の人が昔に書いたものは現代日本語で読めないのではないかというかもしれないが、日本では明治以来今まで驚くほどたくさんのよい翻訳が行われてきた。特に文学作品は層が厚い。

そこでここでは、比較的近年翻訳されたり文庫化された翻訳小説の名作で私の好きなものを、紙面の許す限りあげてみたい。歴史を専門とする私は、文学作品については全くの素人としての評とあらすじしか書けないが、お許し頂きたい。なお、これまでにお読みになった方、私の勧めに応じて読んでくださる方、いずれにしても以下の本がお好きな方は、是非私にお声をかけてください。お互いの読後感を交換できれば幸いである。

会田由訳『ラサリーリョ・デ・トルメスの生涯』岩波文庫

一六世紀スペインで大変人気のあった作者不明の冒険小説。セルヴァンテス『ドン・キホーテ』も有名だが、それより半世紀ほど古い。貧しい少年ラーサロが、何人ものどうしようもなくダメな主人に仕えながら、したたかに世間を渡り歩き、最後に安定した仕事と家庭を得るまでの冒険談。これが、今読んでもとてもおもしろいのだ。もちろん古い話なので、びっくりするほど乱暴だったり不潔だったり、差別的な表現なども散らばっているが、そこは全く別の時代のものとして度外視して読んでほしい。この作品が最初に翻訳されたのが昭和16年だということにも驚いて

しまう。訳者にも、最近復刊してくれた出版社にも、敬服の至りである。

エリザベス・ギャスケル、小池滋訳『女だけの町―クランフォード』岩波文庫

19世紀前半イギリス、大産業都市の近郊にはあるが、時の止まったような小さな町に暮らす年配女性たち。彼女たちは、ちょっとした貴族を姻戚にもつ奥方様から、牧師の娘の老嬢達、軍人の未亡人などだ。彼女たちは、服の一つもなかなか新調できず、お茶のお菓子や砂糖もけちるほどささやかな暮らし向きだが、本人達は大まじめでこの町の上流社会を代表しているつもりである。こんな女性達が、お茶や食事に呼び合ったり、昔の恋人に会ったり、泥棒騒動におびえたりと、なんということもない話ばかりが続く平和でユーモアにあふれる作品である。19世紀のイギリス人と言えば対外的には傲慢な金持ちというイメージが強いが、国内ではこんなにおとなしく慎ましい暮らしもあったのだ。

ジョウゼフ・コンラッド、中島賢二訳『西欧人の眼に　上・下』岩波文庫

この本の舞台は1900年ころの革命前夜のロシアだが、主人公は政治には関心がない、自分の将来だけを考えている勤勉で優秀な学生である。しかし彼は、寡黙で思慮深く見えるというだけで、革命派の学生から一方的に信頼を寄せられ、大臣暗殺を実行した友人が下宿に転がりこんできてしまう。いろいろな行き違いから彼はこの友人を官憲に引き渡す羽目になり、さらには政府側のスパイとしてロシアの亡命者の集まるジュネーヴに赴き、友人の母親や妹とも交際せざるを得なくなっていく。このように、この小説は不条理に満ちた悲劇だが、なぜかどこか滑稽なところもある話である。また筋書きが優れているので、読み出すと止まらない。イギリスの作家だが、ポーランド地主の子孫で、普通のイギリス人とはちょっと行動範囲が異なる国際性を感じさせる。

ナタリア・ギンズブルグ、須賀敦子訳『ある家族の会話』白水*u*ブックス

1920-40年代の北イタリアの古都トリノに住むある家族の物語。登山だけを娯楽と心得る頑固な解剖医学者の父、華やかなドレスの好きな母と姉、豊かな才能とともに青年らしい問題も抱えた3人の兄やその友人達に囲まれた末娘ナタリア（著者自身）の目から、物語は描かれる。全く普通の家族だが、彼らはユダヤ人で、反ファシズム運動をしている。これは最初はそんなに深刻なことではない。しかし時代が進むにつれイタリアでもユダヤ人迫害が進む。特にムッソリーニ政権瓦解後ドイツがローマ以北のイタリアを占領する1943-4年、本当の危機が迫る。この家族はこうした危険な情勢の中を，離ればなれになりながらも、勉学を続け、結婚をし、子供を作り、友情を培い、生き抜いていく。おそらく現実はもっとつらかっただろうが、著者はつらいことより家族の日常の姿を描くことに力点を置いた。そのおかげで、悲しい話はつらくて読めないという方にもお薦めできる本である。

（かわわけ　けいこ：文学部准教授）

（御紹介の「ラサリーリョ･デ･トルメスの生涯」（請求記号 963 ‖ L）、「女だけの町」（請求記号 933.6 ‖ G）、「西欧人の眼に」（請求記号 933.7 ‖ C ‖ 1 ～ 2）、「ある家族の会話」（請求記号 973 ‖ G）は、２階閲覧室入口の新着図書コーナーに配架していますので、御利用ください。）

電子ジャーナル・データベースが増えました！

電子ジャーナル・データベースは、既に購読やトライアルが始まっているもの、４月以降に読めるようになるものなど、大幅にタイトル数が増えました。待望の国内の新聞記事データベースも入りました。

本年1月以降に新しく入ったものを紹介します。

今までの契約分も含めて、どんどん利用してください。

なお、アクセスは学内ＬＡＮに接続したＰＣからとなりますのでご注意ください。

また、既にご利用いただいている EBSCOhost と SpringerLink は、申請していただくと学外からもアクセスできます。手続きは図書館２階カウンターでお願いします。

朝日新聞記事オンライン記事データベース

『 **聞蔵Ⅱビジュアル** 』　※ 同時アクセス 2

◇1945 年から現在までの朝日新聞記事◇

1945～1984 は縮刷版／1985～2005.10 月はテキスト表示／1985.11 月～　新聞切り抜きイメージ

※地方版・日曜版などは、収録していない年代もあります。

※朝日新聞社外筆者の記事は、著作権の関係で全文表示されないものもあります（見出し検索のみ）

◇AERA◇

1988 年５月（創刊号）～

◇週刊朝日◇

2000 年４月～　　ニュース面のみ

◇知恵蔵◇

最新版現代用語　　約３万語（毎年春に更新）

◇人物データベース◇

政官財や研究者・ジャーナリストなど幅広い人物情報を約 35,500 件収録。

アクセスは図書館 HP から。
利用後は
必ずログアウトしてください。

トライアル情報（～2010 年 3 月 31 日まで）

◇朝日新聞歴史写真アーカイブ◇

満州事変前後から終戦までの間、各地へ配置された特派員や記者が撮影した写真約１万点

※ 検索結果の図書館内でのプリントアウトについては、カウンターにおたずねください（有料）。

新規契約電子ジャーナル一覧

	タイトル	利用可能範囲
	Angewandte Chemie International Edition	1998年からCurrentまでアクセス可
★	Annual review of Biochemistry	※
★	Annual review of plant biology	※
☆	Biological control	2005年からCurrentまでアクセス可
☆	Cell	1995年からCurrentまでアクセス可
	Chemical communications : chem comm	1997年からCurrentまでアクセス可
☆	Current opinion in plant biology	2005年からCurrentまでアクセス可
	Ecology	1997年からCurrentまでアクセス可
	The EMBO journal	
	EMBO reports	
☆	Food and chemical toxicology	2005年からCurrentまでアクセス可
☆	Journal of environmental psychology	2005年からCurrentまでアクセス可
☆	Journal of nutritional biochemistry	2005年からCurrentまでアクセス可
☆	Lingua	2005年からCurrentまでアクセス可
	Nature	2005年からCurrentまでアクセス可
☆	Nutrition research	2005年からCurrentまでアクセス可
	The Plant journal	
	PNAS : proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America National Academy of Sciences	
	The Plant Journal	
☆	Preventive medicine	2005年からCurrentまでアクセス可
☆	Quaternary international	2005年からCurrentまでアクセス可
☆	Science	1997年からCurrentまでアクセス可
☆	Scientia horticulturae	2005年からCurrentまでアクセス可
☆	Trends in plant science	2005年からCurrentまでアクセス可

☆のタイトルは4月以降、★は6月以降契約予定です。
諸般の事情で、見られる時期が前後することがあります。ご了承ください。

利用可能範囲欄は、空白のものはオンライン収録分はすべて利用可能、※は未定です。

図書館システムの更新に伴い、ホームページも新しくなりました（本号「図書館の新しいサービスがはじまります！」をご覧ください）。

電子ジャーナル・データベースの一覧は、今までトップページ中央にありましたが、数が増えたのでリンクページへ移行しました。また、本学蔵書検索から、データベース中のジャーナル名の検索が可能になりましたので、ご利用ください。

図書館の新しいサービスがはじまります！

2009年4月6日より

３月18日（水）～４月３日（金）の間、図書館２階閲覧室休室中は大変ご迷惑をおかけいたしました。

図書館では、年明けから新システムとホームページの更新準備を進めてきました。休室期間中に新システムへの移行も無事完了し、新しい図書館サービスを４月６日から開始します。

図書館ホームページ刷新

画面をスクロールしなくても必要な情報が手に入るよう、トップ画面をすっきり見やすくしました。

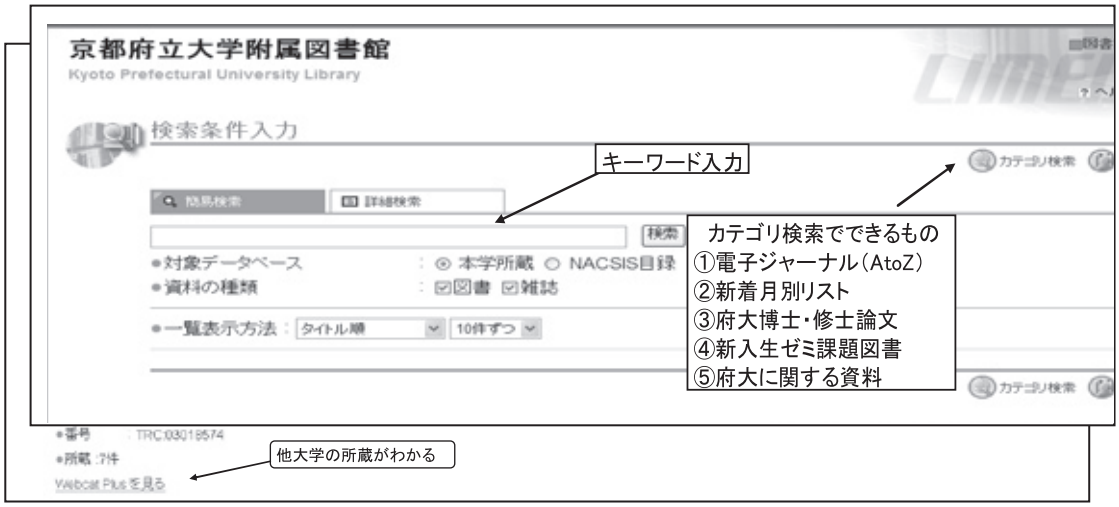
ホームページ上に新たに図書館からの「お知らせ」を設けました。図書館からの大事なお知らせ、新サービスの紹介等を掲載する予定です。

（４月６日の時点で右記の図書館ホームページ画面は変更になっている場合があります。）

２大学横断検索はこちらから

蔵書検索（OPAC）の機能充実

府大の蔵書検索画面から、**NACSIS 目録** が検索できるようになりました。検索結果詳細画面から **Webcat Plus** をクリックすると所蔵大学がわかります。また、図書館ホームページトップ画面の「**京都府立大学附属図書館・京都府立医科大学附属図書館横断検索**」をクリックすると２大学の蔵書が同時に検索できます。**カテゴリ検索機能**も新たに設けました。5つのカテゴリがクリック１回で一覧表示できます。

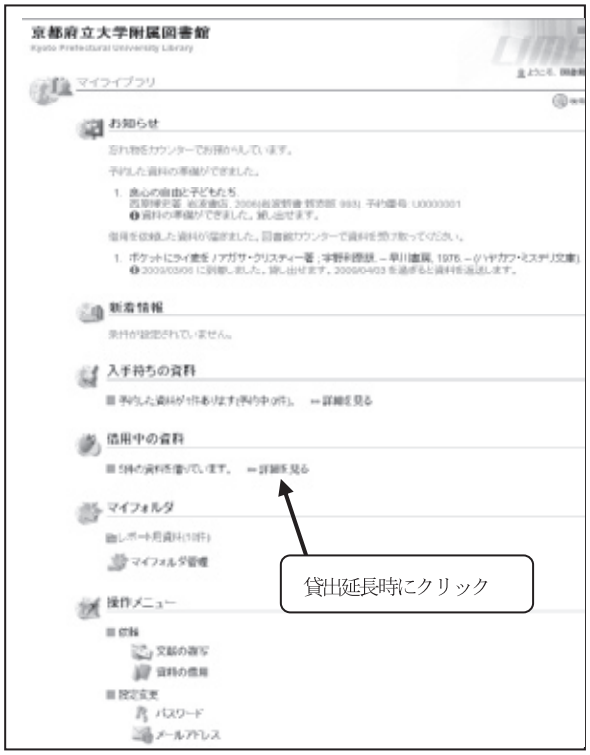


「マイライブラリ」機能が加わる

これまでは、貸出中の図書への予約と文献複写依頼の２機能だけが図書館ホームページからできる Web サービスでした。新システムでは新たに「マイライブラリ」機能が加わり、Web サービスの種類が増えます。

「マイライブラリ」から提供するサービスは、下記の６点です。

①**お知らせ**（図書館からの連絡事項や依頼した資料の到着通知を表示）
②**新着情報**（あらかじめ登録した条件に該当する図書が図書館に入ったときに、その情報を表示）
③**入手待ちの資料**（資料の予約など図書館に依頼した事項の情報を表示）
④**借用中の資料**（借りている資料の情報を表示。貸出期間の延長はここから）
⑤**マイフォルダ**（資料の検索結果の保存・参照・整理ができる）
⑥**操作メニュー**（**依頼**ではこれまでの「文献複写」に加え、「図書の借用」も可能
設定変更ではパスワードやメールアドレスの変更が可能）



「マイライブラリ」を利用するには、パスワードの登録が必要です。

新入生の方は、「図書館利用カード」申請書のパスワード欄を忘れずに記入してください。在校生でパスワードをまだ登録されていない方は、カウンターで申請書を受け取ってください。

貸出延長が便利に

「マイライブラリ」に入り、借用中の資料の**詳細を見る**をクリックしてください。資料名や返却期限と一緒に**貸出期間の延長**ボタンが表示されます。

図書館に来館することなく延長することができます。ただし、延長は**1 回だけ**です。他に延滞中の本がある場合や、長期貸出を受けた図書（夏季・冬期・春季）、既に予約が入っている場合は延長できません。

携帯からも検索可能に

携帯電話から府大図書館の蔵書が検索できるようになります。図書館ホームページ上の QR コードを読み取るか、URL を入力してください。

図書検索以外に①貸出情報　②予約情報　③新着図書情報も確認できます。

これまでになかった新機能がたくさん加わりました。図書館では「新システム利用ガイダンス」を実施する予定です。日時等は図書館ＨＰの「お知らせ」をご覧ください。

京都外国語大学との間で 図書館の共同利用協定を締結しました！

○　本学附属図書館と京都外国語大学付属図書館は、両大学の学生・教職員が双方の図書館を相互に利用できるようにするため、共同利用の協定を締結しました。
　この協定により、４月１日から、両大学の学生・教職員は相手方の大学図書館から、閲覧・貸出などその大学の学生・ 教職員とほとんど同等のサービスを受けることができます。

○　京都外国語大学付属図書館は、中央図書館である本館とアジア関係資料を中心に所蔵する分館からなっています。同館の蔵書は、英語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、ブラジルポルトガル語、中国語、日本語、イタリア語、ロシア語、オランダ語、アラビア語、ハングルなどの言語に及び、これらの言語圏の文学、歴史、芸術、社会科学などの分野にわたる国際地域研究のための資料が多いことが特徴です。これら本学未所蔵の資料を利用できることは、共同利用協定の大きなメリットであり、十分活用の価値があります。

○　もちろん、共同利用協定ですから、京都外国語大学の学生達も本学図書館を訪れます。図書館には、それぞれ利用規程等により利用のルールが定められています。マナーを守って、お互い気持ちよく利用したいですね。

＜共同利用のポイント＞
◆学生・教職員は、相手方図書館に赴き、学生証・身分証明書を提示して、入館する。
→　**館内閲覧・文献複写ができる**
◆更に、学生証・身分証明書により図書館利用カードの発行を受ける。
→　**図書の貸出が受けられる**

共 同 利 用 の 内 容

項　　目		内　　容
利用資格		学部学生（短期大学学生を含む）、大学院生、専任教職員
入館手続		学生証、身分証明証、図書館利用カード（ライブラリーカード）の提示
利用条件	①利用内容	館内閲覧、文献複写、貸出
	②利用できる施設	閲覧室
	③対象資料	図書館所蔵資料（※）
	④貸出冊数	６冊（雑誌は不可）
	⑤貸出期間	２週間
	⑥貸出方法	図書館利用カード（ライブラリーカード）の提示
	⑦コピー料金	来館者 10 円

※京都外国語大学の分館所蔵資料の利用は、本館におけるライブラリーカードの発行後可能となります。

カレンダー

2009年 4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

★4/1(水)～3日(金)　システム更新のため、臨時休館
☆4/6(月)～9(木)　春季休業のため、16:45閉館
☆4/10(金)～30(木)
　通常開館　9:00～21:00
　通常貸出(貸出冊数6冊以内、返却期限2週間以内)
★4/29(水)休館　昭和の日

2009年 5月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

☆5/1(金)～29(金)
　通常開館　9:00～21:00
　通常貸出(貸出冊数6冊以内、返却期限2週間以内)
★5/4(月) 休館　みどりの日
★5/5(火)休館　こどもの日
★5/6(水)休館　振替休日

2009年 6月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

☆6/1(月)～30(火)
　通常開館　9:00～21:00
　通常貸出(貸出冊数6冊以内、返却期限2週間以内)

開　館　時　間　等	
下記以外の　4/9(木)～6/30(火)	通常開館　9:00　～　21:00
4/6(月)～4/8(水)	春季休業期間　9:00　～　16:45
臨時休館(4/1(水)～4/3(金))、　土・日・祝	休　館

なからぎ 京都府立大学図書館報　187 号 2009（平成 21）年 4 月発行　編集発行人：山崎福之
発行所：京都府立大学附属図書館　〒 606－8522 京都市左京区下鴨半木町　TEL 075(703)5128
FAX 075(703)5192　ホームページ http://www2.kpu.ac.jp/toshokan/toshokan.html